

患者さまへ

「急性出血性直腸潰瘍における血便出現から
内視鏡検査実施までの時間と予後の関連」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。
このような研究では、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得ることが困難な場合には、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。
なお、研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

1 研究の対象	2015 年 6 月より 2024 年 6 月までに当院入院後、血便が出現し、内視鏡検査を受けられ、急性出血性直腸潰瘍と診断された方
2 研究目的・方法	急性出血性直腸潰瘍は突然の血便が出現し、内視鏡検査時に止血を行うことが必要な疾患です。しかし、鮮血便出現後から内視鏡での止血処置を実施するまでの時間とその後の経過との関連はわかりません。 本研究では、その関連を明らかにすることを目的とし、止血処置を緊急で実施することが急性出血性直腸潰瘍のその後の経過を改善するか、明らかにできることが期待されます。 研究の期間:施設院長許可(2024 年 9 月)後～2026 年 3 月
3 情報の利用拒否	情報が当該研究に用いられることについて、患者さまもしくは患者さまのご家族等で患者さまの意思及び利益を代弁できる代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としません。その場合は、「5. お問い合わせ先」までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。 ただし、ご了承頂けない旨の意思表示があった時点で既にデータ解析が終わっている場合など、データから除けない場合もあり、ご希望に添えない場合もあります。
4 研究に用いる情報の種類	研究対象者背景:年齢、性別、入院後日数、原疾患、合併症、直腸潰瘍の既往、慢性便秘症の有無、抗血栓薬の有無、ステロイドの有無、透析の有無、直前の浣腸の有無 栄養:摂取カロリー、摂取経路など 血液検査項目:アルブミン値、血小板数、凝固機能、ヘモグロビン値など その他:輸血量、鮮血便出現から止血処置実施までの時間、造影 CT 検査の結果、予後、病理検査結果 等
5 お問い合わせ先	本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。 研究責任者、照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先: 鎌口 清満 湘南鎌倉総合病院・集中治療科 神奈川県鎌倉市岡本 1370-1 電話番号:0467-46-1717